

6 成田空港・首都圏新空港の整備

- ・成田空港の利便性向上を図るため、都営地下鉄浅草線の改良など、都として可能な協力を行います。
- ・首都圏新空港については、羽田空港・成田空港とともに首都圏の基幹空港としての機能を確保しつつ、アクセス利便性の高い候補地が選定され、国の事業として早期に事業化が図られるよう働きかけていきます。

【現状と課題】

- (1) 成田空港は、開港から20年以上経っていますが、いまだに4,000mの滑走路が1本だけとなっています。しかし、発着回数が年間12.5万回、利用旅客数が年間2,600万人程度と既に限界に達しており、諸外国からの乗り入れ希望やビジネスジェット機の利用希望に対応できていません。

また、国内線が4路線7往復しか就航していないため、国際線と国内線を乗り継ぐ利用者は、羽田空港を経由して成田空港を利用するなど不便を強いられています。このため、成田空港に就航する国内線の拡大や羽田空港とのアクセスの改善が望まれています。

- (2) 成田空港は、現在、延長2,180mの暫定滑走路整備が進められていますが、大型機が使用できないなどの制約があります。増加傾向が続く首都圏の航空需要に対応するためにも、本格的な平行滑走路の早期完成が望まれています。

- (3) 国は、首都圏の増大する航空需要に対応するため、羽田空港及び成田空港の発着枠を段階的に増やしてきましたが、混雑を解消するには至っていません。

また、首都圏の航空需要は今後も大幅な増加が見込まれており、成田空港の平行滑走路の完成や、再拡張を始めとした羽田空港の有効活用が進められたとしても、空港容量は21世紀半ばまでに再び限界に達するものと予測され、空港容量の更なる拡大が必要となっています。

現在、国では、このような首都圏における将来の航空需要に対応す

るため、首都圏第3空港の構想について本格的な調査・検討を進めています。

【両空港整備の意義】

- (1) 航空需要増大に対応し、国際競争力を高めるために必要です
21世紀の航空需要増大に対応するとともに、首都圏空港間の機能分担を見直し、首都圏空港の効果的な運用を図ることにより、我が国の国際競争力の向上が図られます。

【取組方針】

- (1) 成田空港のアクセス充実に向け、都として可能な協力を行います
成田空港の利便性向上を図るため、都営浅草線の改良など、都として可能な協力を行います。

- (2) 首都圏新空港の早期事業化を、国に働きかけます
首都圏新空港は、国により位置選定に向けた本格的な調査が実施されています。都としては、首都圏新空港が羽田空港・成田空港とともに首都圏の基幹空港としての機能を確保しつつ、アクセス利便性の高い候補地が選定され、国の事業として早期に事業化が図られるよう働きかけていきます。